

投資するなら バランスのとれた“幕の内弁当”

日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹



Vol.4では、投資で取るリスクは賭け事ではなく、株式やリートを通じて世界経済の成長に参加すること、ということをお伝えしました。今回は、数ある金融商品の中から、どのようなものを選べば良いか、についてお伝えします。

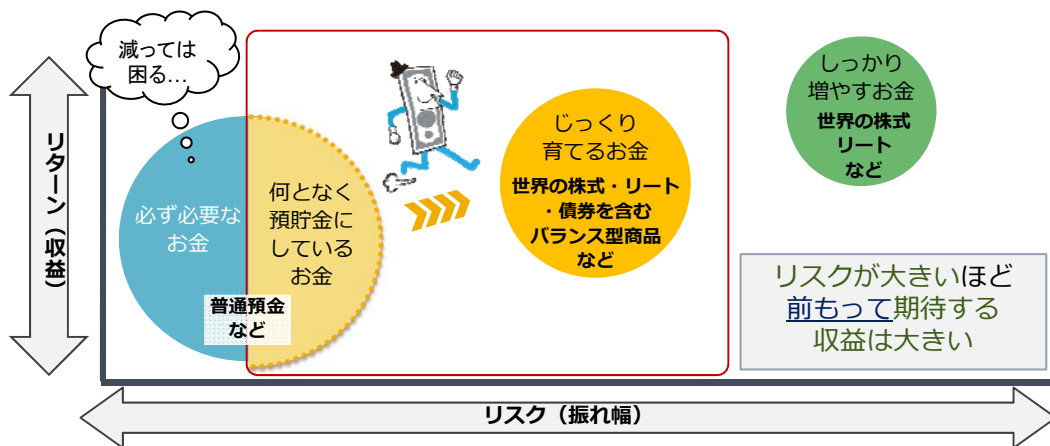
■ 金融商品の特性を知り、バランス良く組み合わせてみよう

金融商品（投資商品）は大きく、①価値を保つための預貯金や債券、②賃料収入が期待されるリート（不動産投資信託、空室リスクなどを負うが期待リターンは高い）、③利益の多くを事業拡大に使い、価値の増大や将来の配当金を期待する株式（事業リスクを負うが期待リターンは高い）といった区別があります。これら特徴が異なる3つを、いろいろな味わいが楽しめる幕の内弁当のようにバランスよく組み合わせれば、リターンをあまり損なわずにリスクを小さくすることが期待できるのです。

具体的には、“株式・債券・リートなど（以下、各資産）を組み合わせたバランス型投資信託に投資する方法”と、“各資産の全体の値動きを表す指標と同じ動きをするよう設計されたETF（上場投資信託）や投資信託を自分で組み合わせる方法”があります。後者の方が相対的に運用管理費用は低いのですが、各資産の評価額が増えたり減ったりするので、時々配分比率を調整してバランスの良い状態を保つ必要があります。その点、前者のバランス型投資信託であれば、ご自身に代わって専門家に運用を任せることができます。

■ 資産形成世代はバランス型を中心に、引退世代は取り崩しつつ残りを増やす方法も

資産形成世代は引退後に『潤いのある暮らし』を送るために、今からお金を蓄えておきたいので、世界経済や事業の成長リスク（良くなったり、悪くなったり）を負う代わりに期待リターンが高い株式の配分比率が高めのバランス型投資信託の検討を、引退世代はお金を取り崩していく世代ですから、賃料など定期的に収入があるリートや、一定の利子が支払われる債券などの配分比率が高めのバランス型投資信託を検討してはいかがでしょうか。もちろん、人生100年時代の“潤い”の源泉として、一部のお金を、配当金が高めの株式への投資や、将来有望とされるロボット関連企業への投資などで、“楽しみ”を持っていただくのも良いかもしれません。



※上記は考え方の一例を示すことを目的としたイメージ図であり、商品の利回り等を保証するものではありません。

●当資料は、日興アセットマネジメントが投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。●投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。●当資料の図表等はすべて過去のものであり、将来の市場環境の変動等を約束するものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また記載内容の正確性を保証するものではありません。